

2 社会の要請に応える体験活動等事業
エ 環境教育や人権教育などの ESD に対応した事業

タラッキー「ECO」キャンプ
～「山と川」をフィールドに「eco」る、いさはやキッズ～

〔主催〕 国立諫早青少年自然の家
〔協力〕 NPO 法人 環境保全教育研究所
〔後援〕 長崎県教育委員会、諫早市
〔期日〕 ①令和7年7月5日（土）～6日（日） 1泊2日
②令和7年9月13日（土）～15日（月・祝）2泊3日
〔活動場所〕 国立諫早青少年自然の家、多良山系周辺
〔参加者〕 ①38名（小学校3～4年生対象）
②17名（小学校5～6年生対象）
〔担当職員〕 貞方 貴衣、戸越 信吾、吉田 流風、高山 雄也 他

1) 事業の趣旨

参加年齢の異なる2つのキャンプを設定し、発達段階に合わせて内容を踏まえた体験活動を提供し、子どもたちが美しい「山と川」を守るために、「自分たちに何ができるか」について考える機会を提供することを目指します。

2) SDGs との関わり

		目標4 質の高い教育をみんなに 質の高い自然体験活動を提供し、自尊感情の向上を図ります。
		目標14 海の豊かさを守ろう 山から見える海を感じ、自然を守ることの大切さを考えます。
		目標15 陸の豊かさを守ろう 川や山を巡る体験を通して川や森の美しさ、自然を守ることの大切さを考える機会とします。
		目標17 パートナリシップで目標を達成しよう 仲間と困難に立ち向かい、声を掛け合いながら克服する喜びを味わいます。

3) 目標

- ①ア：山と川・森のつながりを考え、自然の大切さを感じよう！
イ：仲間と協力してつながりを感じよう！
②ア：【水・森・火と人】のつながりを考えよう！
イ：【人と人】のつながりを感じよう！

4) 事業プログラム

①令和7年7月5日(土)～6日(日) 1泊2日

1日目 7月5日(土)	2日目 7月6日(日)
10:00 集合、はじまりの会、アイスブレイク	6:30 起床、朝のつどい(ラジオ体操)
11:00 講義【森と水について学ぼう!】 《写真1》	朝食(レストラン) 後片付け
12:00 昼食(持参弁当)	9:00 <u>ハイキング</u> を通して考えよう 《写真3》
13:00 <u>沢登り</u> を通して考えよう 《写真2》	12:00 昼食(レストラン弁当)
17:00 タベのつどい、夕食(レストラン)	13:00 振返り 【森と生活について学び考えよう!】 《写真4》
19:00 振返り	15:00 終わりの会・解散
20:00 入浴、休憩	
21:30 就寝	

②令和7年9月13日(土)～15日(月・祝) 2泊3日

1日目 9月13日(土)	2日目 9月14日(日)	3日目 9月15日(月・祝)
10:00 集合、はじまりの会 アイスブレイク 《写真5》	6:30 起床、朝のつどい 朝食(レストラン)	6:00 起床、朝のつどい 後片付け・点検 朝食(早朝活動食)
11:00 昼食(持参弁当)	9:00 講義 【森の木について学ぼう!】 《写真7》	8:00 <u>ハイキング</u> を 通して考えよう 昼食(レストラン弁当) 《写真11》
12:00 <u>沢登り</u> を通して考えよう 《写真6》	10:30 <u>野外炊事</u> を 通して考えよう(昼食) 《写真8》	14:30 振返り 【森と生活について学び 考えよう!】 《写真12》
16:30 講義 【森と水について学ぼう!】	15:00 <u>焼き板</u> を通して考えよう 《写真9》	15:30 終わりの会・解散
17:00 タベのつどい、入浴 夕食(レストラン)	17:00 タベのつどい 夕食(レストラン)	
19:00 振返り	19:00 キャンプファイヤー 《写真10》	
21:30 就寝	20:00 入浴、休憩	
	21:30 就寝	

5) 事業展開

①令和7年7月5日(土)～6日(日) 1泊2日

《写真1：講義》



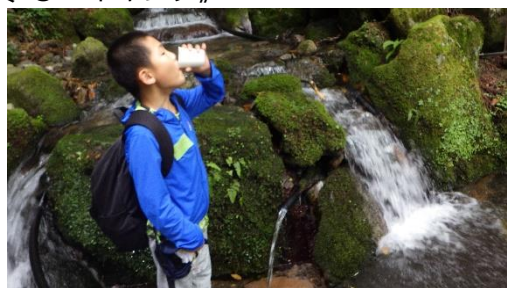
講師から「森と水」をテーマに環境に関するお話がありました。導入として環境に対して考えるきっかけとなる時間となり、参加者はとても興味を持って聞くことができていました。

《写真2：沢登り》



沢登りでは、大きな滝や冷たい水に歓声をあげながらゴールまでたどり着くことができました。水の冷たさを感じたり、生き物に触れたりしながら、「森と水」のつながりを感じました。

《写真3：ハイキング》



「すだらの森」までのハイキングのゴールには美味しい水が湧き出ています。大自然の中で飲む湧き水はとても美味しく、「おいしい！」と歓声を上げていました。

《写真4：振り返り》



最後の振り返りでは、2日間で学んだことをまとめ、環境を守るために自分たちにできることは何か考える時間でした。また、キャンプの感想もお互いに伝え合うことができました。

②令和7年9月13日～15日 2泊3日

《写真5：アイスブレイク》



アイスブレイクでは、初めて知り合った子どもたち同士の仲を深めるゲームを行いました。はじめは緊張感漂う雰囲気でしたが、あっという間に場が和みました。

《写真6：沢登り》



沢登りを通して「森と水」のつながりについて感じ、考えました。天候が心配されましたが、みんなで協力し、無事にゴールへたどり着くことができました。

《写真7：講義》



「森の木」が人とどのようなつながりがあるかを学ぶために、講師からのお話を聞きました。「木・火・人」のつながりについても考えることができました。

《写真8：野外炊事》



森の木々を集め、薪として使用して野外炊事を行いました。火起こしに苦戦しながらも無事に焼そばを作ることができました。「森の木」を使った活動から「火と人」のつながりについて考えるきっかけとなりました。

《写真9：焼き板》



野外炊事の残り火で焼き板を作りました。焼いた板をブラシでこすると、きれいな木目が出てきます。作品から「森の木」の美しい温かみを感じました。また、残りの灰を利用して、灰石鹸も作りました。

《写真10：キャンプファイヤー》



キャンプファイヤーでは、火を囲みながらレクリエーションで盛り上がりました。火の長や女神はボランティアスタッフが演じ、子どもたちも終始楽しそうに過ごしていました。「火と人」のつながりを感じる時間を過ごせました。

《写真11：ハイキング》



すだらの森まで約6kmの道のりを班毎に歩きました。環境に関するクイズや、チームワークが試されるような課題に挑戦しながら進み、ゴールでは美味しい湧き水をいただきました。昼食のお弁当容器は前日に作った灰石鹸を使って洗浄し、環境にも配慮する方法を学びました。

《写真12：振り返り》



振り返りでは、まず「水・森・火と人」のつながりについて考え、お互いに発表し合いました。次に「人と人」のつながりについて感じるために、お互いに感想を伝え合いました。2日間のまとめとしてしっかりと自分の考えを発表できました。

6) 評価

① アンケート結果（事業全体に対する満足度）

	満足	やや満足	やや不満	不満
1 回目	86%	11%	3%	0%
2 回目	93%	7%	0%	0%

② 参加者の声

- ・人が生きていくのに水はとても大切だと分かった。
- ・ハイキングで6km歩くのはきつかったけどゴールまで歩いて良かったです。歩きながら励まし合って良かったです。
- ・野外炊事など自分一人では絶対にできなくて、人と人との関係や協力が大事だと思った。

7) 成果と課題

① 成果

- ・全2回の事業共に、講師からの講義により、環境を守るための知識や水の大切さについての理解は深まった様子がうかがえました。
- ・活動を通して、同じグループのメンバーと協力し、とても仲良くなっていく様子がうかがえました。
- ・各回で学年を区別したことにより、対象に合わせた活動内容を考えることができました。活動の難易度や、振り返りの内容など対象に即して行うことで、理解度を深めることができたのではないかと考えます。
- ・全2回共に、ボランティアのサポートが手厚く、子どもたちに近いところで支援することができました。活動と活動の間の時間に適切な声掛けや、促しがあったため、怪我無く安全に事業を終えることができました。

② 課題

- ・全2回の事業共に、めあてが2つあったことから、活動の方向を考えることに時間を要しました。
振り返りの進行担当者を別の指導者にすることにより、混乱しないように心掛けましたが、中には難しいと感じる子どももいたことが課題の1つです。
- ・「環境教育」を「自然体験」の中で実施することの難しさを感じました。環境を守るための直接的な行動（例：ゴミ拾いなど）を活動としてプログラムに組み込むのではなく、沢登りやハイキングといった活動の中に見つけていく、というプログラム構成にしたため、参加者が本質の見極めや整理ができていない部分があったことが課題として残っています。